

date : 12.2013
check :
name :

歯学部附属病院 快眠歯科(いびき・無呼吸)外来

睡眠時無呼吸症候群を歯科的に治療



Oral Appliance

マウスピース●下顎を前に出した状態で固定するスリーブスプリントには、保険診療の上下一体型と保険外診療の上下分離型がある。部分義歯を使用しているような歯列欠損の患者には、欠損部分を補ったスプリントを作製する。



Order made



Director Hideshima



秀島雅之科長●「もとは歯科補綴が専門で、30年近く義歯の患者さんを診てきました。長年培ってきた補綴の経験を活かして、歯科でも敬遠されがちな欠損歯列を伴うSAS患者のOAの診療にも取り組み、全身の健康やQOLの回復に貢献したい」



個別対応●マウスピースはすべてオーダーメイド。下顎が前に出る距離の60~70%出るように調整したスリーブスプリントを装着して眠ると、舌の位置が上がり、気道が広がって呼吸が通りやすくなる。



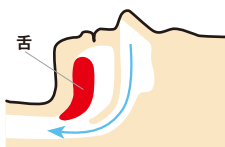
Clinic



外来診療●初診の診療は月曜日と金曜日の2日間。新設されて間もないため、まだ専用の診療室はなく、総合診療室の一部で初診の対応にあっている。

睡眠時の気道の状態といびき・無呼吸症療法のメカニズム

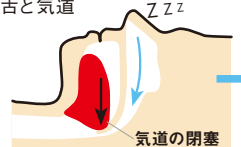
健常者



気道は十分確保され、呼吸は円滑に行われる

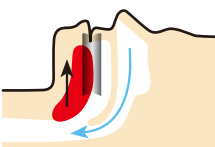
いびき・無呼吸症

いびき・無呼吸症の睡眠中の舌と気道



肥大して垂れ下がった舌が気道を塞ぎ、呼吸障害が生じる

OA(マウスピース)装着



OA(マウスピース)を装着すると、下顎が少し前に出るため、舌の位置も上がり、気道が広がり呼吸がしやすくなる

2012年10月に新設された快眠歯科(いびき・無呼吸)外来。睡眠中に無呼吸の状態を繰り返す睡眠時無呼吸症候群(SAS)の中でも、比較的軽度な患者を対象に歯科的治療を行う。

現在国内では約15万人がSASと診断されて治療を受けており、潜在患者数は200万人にも上るといわれる。

SAS患者は睡眠が浅くなるため、日中の強い眠気や集中力の欠如など日常生活に支障をきたすだけでなく、高血圧、糖尿病、心筋梗塞、脳血管障害などの疾患リスクも高い。

睡眠中の1時間あたりの無呼吸・低呼吸の回数が20以上のSASの場合は、医学部附属病院でCPAP(持続陽圧呼吸装置)と呼ばれる鼻マスクを睡眠時に装着して、呼吸をサポートする治療が保険適用される。対して、ここでいう歯科的治療では、OA(Oral Appliance)と呼ばれるマウスピースを装着して下顎を前に出し、気道を広げて呼吸をしやすくする。CPAPほどの効果はないが、携帯性に優れることや睡眠中の不快感が少ないといったメリットがあり、花粉症などでCPAPを使用できない重度患者に使うこともある。

「どれくらい下顎を前に出すか、その微調整が大切です。出し過ぎれば噛み合わせや顎関節にも影響が出るので、マウスピース使用後は定期検査が欠かせません」と話すのは診療科長の秀島雅之講師。

快眠歯科(いびき・無呼吸)外来を受診するには、事前に医療機関で睡眠検査を受け、SASとの診断を受けることが必要だ。その段階で重度だと診断された場合は、CPAPの適用となる。学内では、医学部附属病院の快眠センターと歯学部附属病院の快眠歯科の関連各科で定期的にカンファレンスが行われ、より効果的な治療法が検討されている。

診療科 DATA

診療科長：秀島雅之

診療スタッフ：専任2名、非常勤1名

連携診療スタッフ：顎関節治療部、義歯外来、総合診療部、部分床義歯補綴学、歯科技工部、看護部、歯学部事務など11名

主とする疾患：睡眠時無呼吸症候群(Sleep Apnea Syndrome : SAS)

主な治療：Oral Appliance (OA : マウスピース)療法による気道閉塞の改善

医学部連携診療科：医学部附属病院快眠センター、呼吸器内科、精神科、耳鼻咽喉科

受診の要件：事前に医療機関での睡眠検査、SASの診断と依頼状が必要